

第2回M:i-S MISSION : in SCIENCE

Welcome to the Rainbow Village

～どことつながる？あなたの興味～

国際開発、貧困削減分野に関心のあるみなさまへ。

開発の現場、特に農業・農村開発では、開発プロジェクトを効果的に動かす上で、技術そのものの存在が必要不可欠です！将来の開発パートナーとなりうる自然科学の学生や研究者がどんな思いで研究を行っているのでしょうか？「食糧危機」をテーマに語り会いましょう！

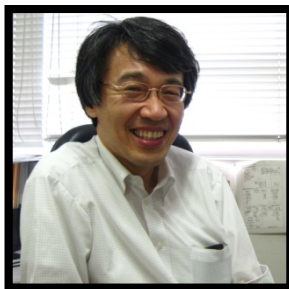
『食糧危機回避に向けた植物科学からのアクション』

有用農業形質の分子メカニズム解明とその応用を目指す。研究により得られた農業上有用な遺伝子を併せ持つ名古屋大学ブランドイネ「WISH」シリーズの開発を目指し、自然科学から世界の食糧危機に貢献するための研究活動を行う。

成果として、緑の革命遺伝子*sd1*やその他耐倒伏性遺伝子の同定 (Nature 2002, Science 2003, Nature 2005) イネの着粒数を増やす遺伝子*Gn1*を同定 (Science 2005)。その後も、深水条件での急激な節間伸長に関連する遺伝子*Snorke*を同定 (Nature 2009)、収量を増加させる遺伝子*WFP*の単離 (Nature genetics 2010)を行う。



芦苜 基行教授
(生命農学研究科)



西川 芳昭教授
(国際開発研究科)

『緑の革命は再現できる？』

作物遺伝学を志す中で、科学技術の進歩が社会や文化という文脈の中で人々の生活の中に翻訳されなければならないことにも気づき、大学院時代に社会科学に転向。「食料危機」「食糧安全保障」というキーワードで農民のニーズと言われた開発が議論されがちなことに警鐘を鳴らしている。

著書に『作物遺伝資源の農民参加型管理』(農文協 2005) 奪われる種子・守られる種子 - 食料・農業を支える生物多様性の未来 (創成社 2010) など。

開催日時 7月7日 (木) 15:00 @ES034 (ES総合館3F)

～プログラム～

- 15:00～ 開場
- 15:20～15:40 はじめに
- 15:40～16:20 芦苜教授 講演
- 16:20～16:35 休憩
- 16:35～17:15 西川教授 講演
- 17:15～17:45 質疑応答
- 17:45～18:15 まとめ
- 18:30～ 交流会(BBQ)
(学生1000円・ポスドク以上2000円)

〇〇申込方法〇〇 7月5日(月) 〆切

学部: 学年: 名前:
交流会への参加/不参加 (参加の場合は当日集めます)
suzuki.kensuke@g.mbox.nagoya-u.ac.jpまで送信してください。

途中入場・途中退場可

* 交流会は人数制限があるため、希望者は事前申し込みをお願いします。



主催
生命農学研究科学生有志(菅沼あずみ、鈴木健介)
国際開発研究科学生有志(福田聖子、鄭セイ陽、近藤亮佑、関龍)
後援 名古屋大学 Global COE
システム生命科学の展開: 生命機能の設計
地球学から基礎・臨床環境学への展開
名古屋大学院国際開発研究科

